参照

臨時資金調整法中改正法律

昭和十八年四月
法律第八十七號

（總理、大藏、内務大臣副署）

三好

臨時資金調整法中左ノ通改正ス

第十條ノ三　政府ハ國民貯蓄ノ增强ヲ圖ル爲必要アリト認ムルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ銀行、信託會社、保險會社、市街地信用組合其ノ他命令ノ定ムル者ニ對シ方法又ハ條件ヲ指定シ資金ノ吸收ニ關シ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第十條ノ四　政府ハ國民貯蓄ノ增强ヲ圖ル爲必要アリト認ムルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ命令ノ定ムル貯蓄ニノミ充ツルコトヲ得ル證券ヲ發行シ又ハ命令ノ定ムル者ヲシテ發行セシムルコトヲ得

前項ニ規定スル證券ハ無記名トシ賣出ノ方法ニ依リ之ヲ發行スルモノトス

第十條ノ五　政府ハ國民貯蓄ノ增强ヲ圖ル爲必要アリト認ムルトキハ貯蓄債券及報國債券ヲ除クノ外命令ノ定ムル所ニ依リ命令ノ定ムル者ヲシテ抽籤ヲ以テ割增金ヲ附スルコトヲ得

ル債券其ノ他ノ證券ヲ發行セシムルコトヲ得

商法第二百九十六條乃至第二百九十八條、第二百九十九條第一項、第三百五條及第三百十七條ノ規定ハ前項ニ規定スル債券ガ社債ナル場合ニハ之ヲ適用セズ

第一項ニ規定スル證券ノ發行ニ依ル收入金ハ命令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ運用スベシ

前條第二項ノ規定ハ第一項ニ規定スル證券ニ之ヲ準用ス

第十條ノ六　第十條ノ四ノ規定ニ依リ命令ノ定ムル者ノ發行スル證券及前條第一項ニ規定スル證券ニハ印紙稅ヲ課セズ

通貨及證券模造取締法ハ第十條ノ四及前條第一項ニ規定スル證券ノ模造ニ之ヲ準用ス

第十條ノ七　政府ハ國民貯蓄ノ增强ヲ圖ル爲必要アリト認ムルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ命令ノ定ムル者ヲシテ抽籤ヲ以テ割增金ヲ附スルコトヲ得ル預金ノ取扱ヲ爲サシムルコトヲ得

第十條ノ八　第十條ノ三、第十條ノ五第一項若ハ前條ノ規定ニ基ク貯蓄又ハ第十條ノ四ノ貯蓄ヲ爲ス者ニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依リ當該貯蓄ノ利子又ハ利益ニ關シ租稅ノ減免ヲ爲スコトヲ得

第十五條第一項中「第三十五條ノ二乃至第三十五條ノ四」ヲ「第三十五條ノ二第一項乃至第三項、第三十五條ノ三」ニ改メ同條第二項中「第二百九十八條」ノ下ニ「、第三百五條及第三百十七條」ヲ加フ

第十五條ノ二　政府ハ必要アリト認ムルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ銀行、信託會社、證券引受業者其ノ他ノ者ニシテ命令ノ定ムルモノニ對シ價格、方法其ノ他必要ナル事項ヲ定メ有價證券ノ賣買ヲ爲シ又ハ政府ノ指定スル法人ノ爲ニ有價證券ノ賣買ノ代理若ハ媒介ヲ爲スベキコトヲ命ズルコトヲ得

第十五條ノ三　政府ハ前條ノ規定ニ依リ有價證券ノ賣却又ハ其ノ代理若ハ媒介ヲ爲サシムル

為必要アリト認ムルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ銀行、信託會社、證券引受業者其ノ他ノ者ニシテ命令ノ定ムルモノニ對シ種類、數量其ノ他必要ナル事項ヲ定メ有價證券ヲ保有スベキコトヲ命ズルコトヲ得

第十五條ノ四　政府ハ第十條ノ三又ハ前二條ノ規定ニ依リ命令ヲ爲ス場合ニ於テハ命令ノ定ムル所ニ依リ之ニ因リ生ジタル損失ヲ補償シ又ハ補助金ヲ交付スルコトヲ得

第十五條ノ五　政府ハ株式ノ市價安定ヲ圖ル爲必要アリト認ムルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ金融機關其ノ他命令ノ定ムル者ニ對シ其ノ所有スル株式ノ一部ヲ戰時金融金庫又ハ日本有價證券取引所ニ對シ時價ヲ以テ讓渡スベキコトヲ命ズルコトヲ得

第十七條ニ左ノ一號ヲ加フ

四　第十五條ノ二又ハ第十五條ノ五ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者

第十八條中第四號ヲ第五號トシ第三號ヲ第四號トシ第二號ノ次ニ左ノ一號ヲ加フ

三　第十條ノ三又ハ第十五條ノ三ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者

附　則

附則第二項中「本法ハ」ノ下ニ「第十條ノ三乃至第十條ノ八、」ヲ加フ

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

内甲四九三

昭和十八年八月十九日

内閣書記官長

内閣書記官

内閣総理大臣

法制局長官

外務大臣　海軍大臣　商工大臣　大東亞大臣

内務大臣　司法大臣　遞信大臣　鈴木國務大臣

大藏大臣　文部大臣　鐵道大臣　大麻國務大臣

陸軍大臣　農林大臣　厚生大臣　後藤國務大臣

別紙内務大臣請議昭和十二年勅令第五百九十四號中改正ノ件

昭和十八年八月二十日裁可
昭和十八年八月二十五日公布

一五

法制局

ヲ審査スルニ右ハ相當ノ儀ト思考ス依テ請議ノ通
閣議決定セラレ可然ト認ム

勅令案

朕昭和十二年勅令第五百九十四號臨時資金
調整法ヲ朝鮮ニ施行スルノ件中改正ノ
件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

昭和十八年八月二十四日

内閣總理大臣

内務大臣

法制局

呈案附箋ノ通

法制局

法制局内第二八八號
昭和十八年八月七日

法制局

内甲四九三

内務省朝管第一七三號

昭和十二年勅令第五百九十四號中改正ノ件

臨時資金調整法改正ニ件ヒ同法ノ改正規定中朝鮮ニ施行シ難キモノニ付特別ノ定ヲ爲スノ必要アリ

仍別紙勅令案竝ニ理由ヲ具シ茲ニ閣議ヲ請フ

昭和十八年八月六日

内務大臣　安藤紀三郎

内閣總理大臣　東條英機殿

主任者　管理局中尾理財課長

内務省

昭和十二年勅令第五百九十四號中左ノ通改正ス

[illegible]」ノ下ニ「、第十條ノ四」ヲ加フ

第二條中「朝鮮金融組合聯合會トシ」ノ下ニ「同法第十條ノ三中市街地信用組合トアルハ金融組合トシ同法第十條ノ五第二項中商法トアルハ朝鮮民事令ニ於テ依ルコトヲ定メタル商法トシ同法第十條ノ六第二項中通貨及證券模造取締法トアルハ朝鮮刑事令ニ於テ依ルコトヲ定メタル通貨及證券模造取締法トシ同法第十五條ノ五中、、、、、、、、日本證券取引所トアルハ朝鮮證券取引所トシ」ヲ加フ

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

理由

臨時資金調整法中改正ニ伴ヒ昭和十二年勅令第五百九十四號中改正ノ、、
、、、、、、、、、、要アルニ依ル

説明

昭和十八年四月一日法律第八十七號ヲ以テ臨時資金調整法ヲ改正シ

一　國民貯蓄ノ増强ヲ圖ル爲新種貯蓄方法ノ實施及新種證券ノ發行

二　貯蓄債券及報國債券ノ發行、償還ニ伴フ手續ノ簡易化

三　適正簡易且安全ナル有價證券ノ賣買機構ノ整備

四　金融機關其ノ他ノ者ニ對スル所有株式ノ讓渡命令

等ニ關スル規定ヲ新ニ設ケタルガ朝鮮ニ於テモ貯蓄ノ増强及地場株式ノ市價安定ヲ圖ル爲前記一、三及四ノ改正規定等ヲ施行シ及資金調整法ノ改正規定ニ依リ難キ部分ニ付讀替ノ規定ヲ設ケントス

大日本帝國政府

參照

●昭和十二年勅令第五百九十四號

（臨時資金調整法ヲ朝鮮ニ施行スルノ件）

昭和十二年十月十五日
勅令第五百九十四號

改正 昭和十四年第三十二號

朕臨時資金調整法ヲ朝鮮ニ施行スルノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム
（總理、拓務大臣副署）

第一條 臨時資金調整法ハ第五條乃至第七條及第十一條乃至第十五條ノ規定ヲ除クノ外之ヲ朝鮮ニ施行ス

第二條 臨時資金調整法第二條中銀行、信託會社、保險會社、産業組合中央金庫、商工組合中央金庫及北海道府縣ヲ區域トスル信用組合聯合會トアルハ銀行、信託會社、保險會社、東洋拓殖株式會社及朝鮮金融組合聯合會トシ同法第二十條中當該官吏、委員若ハ第五條第三項ニ規定スル日本銀行職員トアルハ當該官吏トス

（國定規格B5 一八二×二五七粍）

様本

東亜甲 二九

昭和十八年九月十三日

内閣総理大臣

外務大臣
内務大臣
大蔵大臣
陸軍大臣

海軍大臣
司法大臣
文部大臣
農林大臣

商工大臣
逓信大臣
鐵道大臣
厚生大臣

大東亜大臣
鈴木國務大臣
大麻國務大臣
後藤國務大臣

内閣書記官長

法制局長官

内閣書記官

昭和十八年九月十四日

昭和十八年九月十八日

別紙大東亜大臣請議關東州臨時資金調整令中改正ノ件

一六

ヲ審査スルニ右ハ相當ノ儀ト思考ス依テ請議ノ通

閣議決定セラレ可然ト認ム

勅令案

呈案附箋ノ通

法制局

秘

法制局

法制局受第二六〇號
昭和十八年八月三十日

満殖第二〇三六號

關東州臨時資金調整令中改正ニ關スル件

關東州ニ於ケル資金調整ニ關シテハ臨時資金調整法ヲ依用セル處右法律ハ曩ニ一部改正セラレタルヲ以テ關東州ニ於テモ之ニ呼應シ所要ノ改正ヲ爲スノ要アリト認ム仍テ別紙勅令案ヲ提出ス右閣議ヲ請フ

昭和十八年八月二十七日

大東亞大臣　青木一男

主任　満洲事務局井上書記官

内閣官房總務課
18. 8.28
文書

大東亞省

大東亞省

内閣總理大臣　東條英機殿

上奏書用紙

規格 B-4（東東2102）

朕關東州臨時資金調整令中改正ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

昭和十八年九月十七日

内閣總理大臣

大東亞大臣

勅令第七百二十八號

大東亞省

大東亞省

關東州臨時資金調整令中左ノ通改正ス

第一條中「第七條ノ二、」ノ下ニ「第十條ノ四乃至第十條ノ六、」ヲ、「第十五條」ノ下ニ「、第十五條ノ五」ヲ加フ

第二條 臨時資金調整法中政府トアルハ滿洲國駐劄特命全權大使トシ同法第二條中銀行、信託會社、保險會社、農林中央金庫、商工組合中央金庫、戰時金融金庫、道府縣農業會及北海道府縣ヲ區域トスル信用組合聯合會トアルハ銀行、保險會社及東洋拓殖株式會社トシ同法第十條ノ三中銀行、信託會社、保險會社、市街地信用組合トアルハ銀行、保險會社、金融組合トシ同法第十五條ノ二及第十五條ノ三中銀行、信託會社、證券引受業者トアルハ銀行、證

上奏書用紙

券引受業者トシ同法第二十條中當該官吏、委員若ハ第五條第三項ニ規定スル日本銀行職員トアルハ當該官吏トス

大東亜省

附則第二項中「本令ハ」ノ下ニ「臨時資金調整法第十條ノ三、第十條ノ七及第十條ノ八ノ規定ニ」ヲ加フ

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

上奏書用紙

規格 B-4（東京2102）

理由

關東州ニ於ケル資金調整ニ關シテハ臨時資金調整法ヲ依用セル處右法律ノ一部改正ニ件登令中所要ノ改正ヲ爲スノ要アルニ依ル

說明書

關東州ニ於ケル資金調整ニ關シテハ臨時資金調整法ヲ依用セル處同法ハ本年三月三十一日法律第四十六號及四月一日法律第八十七號ヲ以テ一部改正セラレタルニ伴ヒ左記ニ依リ本令中所要ノ改正ヲ爲サントスルモノナリ

記

第一條（改正）

新ニ規定セラレタル第十條ノ四及第十條ノ五ニ關シテハ同條ニ規定ノ證券ハ內地發行機關ト州內受託機關トノ間ニ於テ業務契約ヲ締結スルコトニ依リ其ノ目的ヲ達シ得ルト、第十條ノ六ニ關シテハ新ニ第三條トシテ代替規定ヲ設ケタルト、第十五條ノ五ニ關シテハ關東州地場株式ニシテ關東州ノ取引所ニ上場セラルルモノ少ク且內地ニ於ケル命令ノ發動ニ依ツテ其ノ目的ヲ達シ得ルトニ依リ以上諸規定ハ之ヲ依用セザルコトト爲

シタリ

第二條（改正）

金融機關ノ讀替等ニ關シ整理ヲ爲シタリ

第三條（新設）

第十條ノ四及第十條ノ五第一項ニ規定スル證券ハ關東州内ニ於テモ賣出サルルモノト豫想セラルルヲ以テ之ガ模造ニ關シ取締規定ヲ設ケタリ

第四條（新設）

大使ハ第十條ノ三又ハ第十條ノ七ノ規定ニ基ク命令又ハ處分ヲ爲サントスル場合正金銀行、朝鮮銀行、臺灣銀行又ハ内地ニ主タル營業所若ハ事務所ヲ有スル銀行及保險會社ノ關東州ニ於ケル營業所又ハ事務所ニ對シテハ豫メ大藏大臣ニ協議スルコトト爲シタリ

附則第二項（改正）

本令ハ大東亜戦争終了後一年以内ニ之ヲ廃止スルコトト為リ居ルモ今回改正ヲ第十條ノ三（資金ノ政収命令）、第十條ノ七（割増金附預金ノ政掠）及第十條ノ八（第十條ノ三及第十條ノ七ノ規定ニ基キ生ズル利子又ハ利益ニ対スル租税ノ減免）ハ内地同様戦争終了後一年以内ニハ廃止セザルコトト為シタリ

大日本帝國政府

參照

●關東州臨時資金調整令

昭和十二年十一月十日
勅令第六百五十一號

改正 昭和一七年第五六九號

朕關東州臨時資金調整令ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理大臣副署）

關東州臨時資金調整令

第一條 關東州ニ於ケル資金調整ニ關シテハ臨時資金調整法ニ依ル但シ同法第五條乃至第七條ノ二、第十一條乃至第十五條及第二十一條ノ規定ハ此ノ限ニ在ラズ

（國定規格B5 一八二×二五七粍）

参照

●臨時資金調整法

昭和十二年九月十日
法律第八十六號

改正 昭和一四年第六八號、第八六號、一五年第七〇號、一六年第一八號、第三九號、一七年第九號、第八四號、一八年第八七號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル臨時資金調整法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

（總理、大藏、農林、商工、拓務大臣副署）

臨時資金調整法

第一條 本法ハ大東亞戰爭ニ關聯シ物資及資金ノ需給ノ適合ニ資スル爲國内資金ノ使用ヲ調整スルヲ目的トス

第二條 銀行、信託會社、保險會社、産業組合中央金庫、商工組合中央金庫、戰時金融金庫又ハ北海道府縣ヲ區域トスル信用組合聯合會（以下金融機關ト總稱ス）ハ事業ニ屬スル設備ノ新設、擴張若ハ改良ニ關スル資金ノ貸付ヲ爲シ又ハ有價證券ノ應募、引受若ハ募集ノ取扱ヲ爲サントスルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ政府ノ許可ヲ受クベシ金融機關ニ非ズシテ有價證券ノ引受又ハ募集ノ取扱ヲ業トスル者（以下之ヲ證券引受業者ト稱ス）有價證券ノ應募、引受又ハ募集ノ取扱ヲ爲サントスルトキ亦同ジ

第十條 政府ハ第八條ノ規定ニ依リ資本ヲ增加シタル會社又ハ前條ノ規定ニ依リ社債ヲ募集シタル會社ニ對シ其ノ業務及會計ニ關シ監督上必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

第十條ノ二 政府ハ土地其ノ他ノモノニシテ命令ノ定ムルモノヲ收用セラレ若ハ賣却シタル者又ハ其ノ利害關係人ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ代價トシテ受クル金錢ノ處分ニ關シ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第十條ノ三 政府ハ國民貯蓄ノ增强ヲ圖ル爲必要アリト認ムルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ銀行、信託會社、保險會社、市街地信用組合其ノ他命令ノ定ムル者ニ對シ方法又ハ條件ヲ指定シ資金ノ吸收ニ關シ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第十條ノ四 政府ハ國民貯蓄ノ增强ヲ圖ル爲必要アリト認ムルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ命令ノ定ムル貯蓄ニノミ充ツルコトヲ得ル證券ヲ發行シ又ハ命令ノ定ムル者ヲシテ發行セシムルコトヲ得

前項ニ規定スル證券ハ無記名トシ賣出ノ方法ニ依リ之ヲ發行スルモノトス

第十條ノ五　政府ハ國民貯蓄ノ增强ヲ圖ル爲必要アリト認ムルトキハ貯蓄債券及報國債券ヲ除クノ外命令ノ定ムル所ニ依リ命令ノ定ムル者ヲシテ抽籤ヲ以テ割增金ヲ附スルコトヲ得ル債券其ノ他ノ證券ヲ發行セシムルコトヲ得

商法第二百九十六條乃至第二百九十八條、第二百九十九條第一項、第三百五條及第三百十七條ノ規定ハ前項ニ規定スル債券ガ社債ナル場合ニハ之ヲ適用セズ

第一項ニ規定スル證券ノ發行ニ依ル收入金ハ命令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ運用スベシ

前條第二項ノ規定ハ第一項ニ規定スル證券ニ之ヲ準用ス

第十條ノ六　第十條ノ四ノ規定ニ依リ命令ノ定ムル者ノ發行スル證券及前條第一項ニ規定スル證券ニハ印紙税ヲ課セズ

通貨及證券模造取締法ハ第十條ノ四及前條第一項ニ規定スル證券ノ模造ニ之ヲ準用ス

第十條ノ七　政府ハ國民貯蓄ノ增强ヲ圖ル爲必要アリト認ムルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ命令ノ定ムル者ヲシテ抽籤ヲ以テ割增金ヲ附スルコトヲ得ル預金ノ取扱ヲ爲サシムルコトヲ得

第十條ノ八　第十條ノ三、第十條ノ五第一項若ハ前條ノ規定ニ基ク貯蓄又ハ第十條ノ四ノ貯蓄ヲ爲ス者ニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依リ當該貯蓄ノ利子又ハ利益ニ關シ租税ノ減免ヲ爲スコトヲ得

第十五條　復興貯蓄債券法第三條ノ規定ハ貯蓄債券ニ、同法第六條、第七條第一項及第八條竝ニ日本勸業銀行法、第三十五條ノ二第一項乃至第三項、第三十五條ノ三、第四十條及第四十二條ノ規定ハ貯蓄債券及報國債券ニ之ヲ準用ス但シ日本勸業銀行法第三十五條ノ二第一項中二十圓トアルハ三十圓トス

商法第二百九十六條乃至第二百九十八條、第三百五條及第三百十七條ノ規定ハ貯蓄債券及報國債券ニハ之ヲ適用セズ

第十五條ノ二　政府ハ必要アリト認ムルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ銀行、信託會社、證券引受業者其ノ他ノ者ニシテ命令ノ定ムルモノニ對シ價格、方法其ノ他必要ナル事項ヲ定メ有價證券ノ賣買ヲ爲シ又ハ政府ノ指定スル法人ノ爲ニ有價證券ノ賣買ノ代理若ハ媒介ヲ爲スベキコトヲ命ズルコトヲ得

第十五條ノ三　政府ハ前條ノ規定ニ依リ有價證券ノ賣却又ハ其ノ代理若ハ媒介ヲ爲サシムル爲必要アリト認ムルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ銀行、信託會社、證券引受業者其ノ他ノ者ニシテ命令ノ定ムルモノニ對シ種類、數量其ノ他必要ナル事項ヲ定メ有價證券ヲ保有スベキコトヲ命ズルコト

美濃判罫紙（十三行全）

ヲ得

第十五條ノ四 政府ハ第十條ノ三又ハ前二條ノ規定ニ依リ命令ヲ爲ス場合ニ於テハ命令ノ定ムル所ニ依リ之ニ因リ生ジタル損失ヲ補償シ又ハ補助金ヲ交付スルコトヲ得

第十五條ノ五 政府ハ株式ノ市價安定ヲ圖ル爲必要アリト認ムルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ金融機關其ノ他命令ノ定ムル者ニ對シ其ノ所有スル株式ノ一部ヲ戰時金融金庫又ハ日本證劵取引所ニ對シ時價ヲ以テ讓渡スベキコトヲ命ズルコトヲ得

第二十條 當該官吏、委員若ハ第五條第三項ニ規定スル日本銀行職員又ハ其ノ職ニ在リタル者本法ニ依ル職務執行ニ關シ知得タル法人又ハ人ノ業務上ノ祕密ヲ漏洩シ又ハ竊用シタルトキハ二年以下ノ懲役又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

内

閣

内甲 六八四

昭和十八年十二月九日

内閣總理大臣

外務大臣 内務大臣 大藏大臣 陸軍大臣

海軍大臣 司法大臣 文部大臣 厚生大臣

大東亞大臣 農商大臣 軍需大臣 運輸通信大臣

岸 國務大臣　大麻 國務大臣　後藤 國務大臣　藤原 國務大臣

内閣書記官長

法制局長官

内閣書記官

昭和十八年十二月十一日

昭和十八年十二月十五日

別紙内務大藏兩大臣請議企業整備資金措置法ヲ朝鮮ニ施行スルノ件

法制局

ヲ審査スルニ右ハ相當ノ儀ト思考ス依テ請議ノ通
閣議決定セラレ可然ト認ム

勅令案

朕企業整備資金措置法ヲ朝鮮ニ施行ス
ルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

昭和十八年十二月十四日

内閣總理大臣
内務大臣
大藏大臣

法制局

(起案用紙青三ノ二號)

呈案附箋ノ通

法
制
局

法制局内第三〇號
昭和十八年十二月六日
𠮷
主任者　管理局橋爪總務課長

法制局

內務省朝管第二四九號

企業整備資金措置法ヲ朝鮮ニ施行スルノ件

企業整備資金ニ關シ朝鮮ニ於テモ內地ト同樣ノ措置ヲ講ズルノ要アル爲企業整備資金措置法ヲ朝鮮ニ施行スルノ必要アリ仍テ別紙勅令案竝ニ理由ヲ具シ玆ニ閣議ヲ請フ

昭和十八年十二月四日

內務大臣　安藤紀三郎

大藏大臣　賀屋興宣

內務省

本件ノ公布日取ニ付テハ內務省ト打合セ相成度
法制局

内閣總理大臣　東條英機殿

内務大臣　安藤紀三郎

昭和十八年十二月四日

金融事業整備ニ付テハ朝鮮ニ於テモ内地ト同様ノ措置ヲ講ズルノ要

アルヲ以テ金融事業整備令ヲ朝鮮ニ施行スルノ必要アリ仍テ本件

勅令案ヲ具シ茲ニ閣議ヲ請フ

金融事業整備令ヲ朝鮮ニ施行スルノ件

内務省[illegible]第二[illegible]號

主任者　管理局[illegible]

規格B4

勅令第九百二十三號

第一條　企業整備資金措置法ハ第二十六條及第二十七條ノ規定ヲ除クノ外之ヲ朝鮮ニ施行ス

第二條　企業整備資金措置法中勅令トアルハ朝鮮總督府令トス

企業整備資金措置法第二條第二項中主務大臣トアルハ朝鮮總督トシ同法第四條第二項中國民更生金庫トアルハ朝鮮重要物資營團トシ國民更生金庫第十七條トアルハ朝鮮重要物資營團令第十五資金措置法第十一條中大藏大臣トアルハ政府特殊借入金、戰時金融金庫特殊借入金及同法第九條第二項ニ於テ準用スル同法第六條第三項ノ規定ニ依リ融通スル資金ニ關スル場合ヲ除クノ外朝鮮總督トシ同法第十三條第二項及第二十四條第三項中大藏大臣トアルハ朝鮮總督大藏大臣ニ協議シテトシ同法第十四條第四項中國稅徵收法トアルハ國稅徵收令ニ於テ依ルコトヲ定メタル國稅徵收法トシ企業整備九條第三項中信託業法第四條トアル

ハ朝鮮信託業令第七條トス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

理由

企業整備ニ關シ之ガ促進ヲ圖リ浮動購買力ノ發生ヲ防止シ國家經濟ノ秩序ヲ維持スル爲企業整備資金措置法ヲ朝鮮ニ施行スルノ要アルニ依ル

内務省

参照

企業整備資金措置法

昭和十八年六月
法律第九十五號

（総理、陸軍、厚生、司法、海軍、逓信、大蔵、商工、鉄道、内務、農林
大亜副署）

企業整備資金措置法

第一條　本法ハ大東亞戰爭ニ際シ企業整備ニ關シ之ガ促進ヲ圖リ浮動購買力ノ發生ヲ防止シ國家經濟ノ秩序ヲ維持スルヲ以テ目的トス

第二條　政府ハ前條ノ目的達成ノ爲必要アリト認ムルトキハ廢止又ハ休止シタル事業ニ屬スル設備、權利其ノ他ノ資產ノ保有ヲ爲シ又ハ保有若ハ處分ノ目的ヲ以テスル買取ヲ爲ス者ニ對シ其ノ保有若ハ買取ニ因リ蒙リタル損失ヲ補償シ又ハ補助金ヲ交付スルノ契約ヲ爲スコトヲ得

前項ノ損失ヲ決定スル基準ハ主務大臣大藏大臣ニ協議シテ之ヲ定ム

第一項ノ補償金及補助金ノ額ニ付テハ豫メ帝國議會ノ協贊ヲ求ムベシ

第三條　政府ハ第一條ノ目的達成ノ爲必要アリト認ムルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ補償金又ハ土地、建物、船舶、設備若ハ權利ノ買收代金ノ債務ニ付其ノ全部又ハ一部ノ支拂ニ代ヘ之ヲ債主ヨリノ政府特殊借入金ト爲シ又ハ債主ニ對シ當該買收代金ノ全部若ハ一部ヲ第六條若ハ第七條ノ規定ニ準ジ債主ノ特殊預金若ハ債主ヲ信託者及受益者トスル特殊金錢信託ト爲スベキコトヲ命ズルコトヲ得

第四條　左ノ各號ノ場合ニ於ケル金錢債務ノ決濟ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ第五條ニ規定スル決濟方法ニシテ債權者又ハ債務者ガ命令ノ定ムル所ニ依リ選擇シタルモノニ依リ之ヲ爲スコトヲ要ス

一　事業ノ全部又ハ一部ノ讓渡アリタルトキ

二　事業ニ屬スル設備又ハ權利ノ全部又ハ一部ノ讓渡又ハ收用アリタルトキ

三　株式又ハ出資ノ持分ノ讓渡アリタルトキ

四　其ノ他勅令ヲ以テ定ムルトキ

前項ノ規定ハ國民更生金庫ガ國民更生金庫法第十七條ノ規定ニ依リ資金ノ融通ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス此ノ場合ニ於テハ國民更生金庫ヲ債務者、資金ノ融通ヲ受クル者ヲ債權者ト看做ス

第五條　前條ノ金錢債務ノ決濟方法ハ左ノ五種トス

一　特殊預金ト爲スコト

二　特殊金錢信託ト爲スコト

三　債務者特殊借入金ト爲スコト

四　戰時金融金庫特殊借入金ト爲スコト

五　政府特殊借入金ト爲スコト

第六條　特殊預金ノ方法ニ依ル決濟ハ債務者ガ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ支拂フベキ金額ノ全部又ハ一部ヲ政府ノ指定スル金融機關ヘノ債權者ノ預金ト爲スコトニ依リテ之ヲ爲ス

前項ノ場合ニ於テ當該金融機關ハ命令ノ定ムル所ニ依リ特殊預金ノ取扱ヲ爲スコトヲ要ス

第一項ノ場合ニ於テ政府必要アリト認ムルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ當該金融機關ニ對シ債務者ニ當該特殊預金ヲ爲スニ必要ナル資金ノ融通ヲ爲スベキコトヲ命ズルコトヲ得

第七條　特殊金錢信託ノ方法ニ依ル決濟ハ債務者ガ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ支拂フベキ金額ノ全部又ハ一部ヲ政府ノ指定スル金融機關ヘノ債權者ヲ信託者及受益者トスル金錢信託ト爲スコトニ依リテ之ヲ爲ス

前條第二項及第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第八條　債務者特殊借入金ノ方法ニ依ル決濟ハ債務者ガ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ支拂フベキ金額ノ全部又ハ一部ヲ債權者ヨリノ債務者ノ借入金ト爲スコトニ依リテ之ヲ爲ス

第九條　戰時金融金庫特殊借入金ノ方法ニ依ル決濟ハ債務者ガ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ支拂フベキ金額ノ全部又ハ一部ヲ戰時金融金庫ニ納付シ債權者ヨリノ戰時金融金庫ノ借入金ト爲スコトニ依リテ之ヲ爲ス

第六條第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十條　政府特殊借入金ノ方法ニ依ル決濟ハ債務者ガ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ支拂フベキ金額ノ全部又ハ一部ヲ政府ニ納付シ債權者ヨリノ政府ノ借入金ト爲スコトニ依リテ之ヲ爲ス

前項ノ場合ニ於テ政府必要アリト認ムルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ債務者ノ納付スベキ金額ノ全部又ハ一部ヲ納付セシメズシテ之ヲ債務者ニ對スル政府特殊債權ト爲スコトヲ得

第十一條　政府特殊借入金、特殊預金、特殊金錢信託、債務者特殊借入金、戰時金融金庫特殊借入金、政府特殊債權及第六條第三項（第七條第二項及第九條第二項ニ於テ準用スル場合ヲ含ム）ノ規定ニ依リ融通スル資金ノ利率、期限其ノ他ノ條件ハ大藏大臣之ヲ定ム

第十二條　特殊預金又ハ特殊金錢信託ノ期限前ノ拂戻又ハ解除及債務者特殊借入金又ハ戰時金融金庫特殊借入金ノ期限前ノ償還ニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依リ政府ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス

政府ハ命令ノ定ムル所ニ依リ政府特殊借入金ノ全部又ハ一部ニ付期限前ノ償還ヲ爲スコトヲ得

第十三條　政府ハ特殊預金又ハ特殊金錢信託ノ取扱ヲ爲ス金融機關ニ對シ補助金ヲ交付シ又ハ第六條第三項（第七條第二項ニ於テ準用スル場合ヲ含ム）ノ規定ニ依リ資金ノ融通ヲ爲シタルニ因リ蒙リタル損失ヲ補償スルノ契約ヲ爲スコトヲ得

前項ノ損失ヲ決定スル基準ハ大藏大臣之ヲ定ム

第一項ノ補助金及補償金ノ額ニ付テハ豫メ帝國議會ノ協贊ヲ求ムベシ

政府ハ債務者特殊借入金又ハ戰時金融金庫特殊借入金ノ元利支拂ヲ保證スルノ契約ヲ爲スコトヲ得

第十條第一項ノ政府特殊借入金及前項ノ規定ニ依リ保證スベキ元本ノ額ニ付テハ之ヲ通ジ豫メ帝國議會ノ協贊ヲ求ムベシ

第十四條　政府特殊借入金、特殊預金、特殊金錢信託、債務者特殊借入金及戰時金融金庫特殊借入金ノ債權ハ之ヲ讓渡シ又ハ擔保ニ供スルコトヲ得ズ但シ左ノ各號ノ場合ニ於テ命令ノ定ムル所ニ依リ政府ノ認可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

一　政府ノ指定スル金融機關ニ讓渡セントスルトキ

二　政府ノ指定スル金融機關ニ擔保ニ供シテ貸付ヲ受ケントスルトキ

三　其ノ他勅令ヲ以テ定ムルトキ

前項各號ノ場合ニ於テ前項ノ認可アリタルトキハ當該金融機關ハ命令ノ定ムル所ニ依リ前項ノ債權ヲ讓受ケ又ハ之ヲ擔保トシテ貸付ヲ爲スコトヲ要ス此ノ場合ニ於テハ當該金融機關ハ他ノ法令ノ規定ニ拘ラズ前項ノ債權ノ讓受又ハ之ヲ擔保トスル貸付ノ業務ヲ行フコトヲ得

前項ノ規定ハ元利支拂ニ付政府ノ保證ナキ債務者特殊借入金ノ債權ニ關シテハ之ヲ適用セズ

第一項ノ規定ハ第一項ノ債權ニ對シ强制執行又ハ國稅徵收法ノ規定若ハ國稅徵收ノ例ニ依ル滯納處分ヲ爲スコトヲ妨ゲズ

第十五條　政府特殊借入金及政府特殊債權ニ關スル事務ハ命令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ日本銀行ヲシテ取扱ハシムルコトヲ得

前項ノ事務ノ取扱ニ要スル經費ハ日本銀行ノ負擔トス

政府ハ日本銀行ニ命ジ政府特殊借入金ノ元利支拂ヲ爲サシムル爲之ガ資金ヲ日本銀行ニ交付スルコトヲ得

第十六條 本法ニ規定スルモノノ外政府特殊借入金、特殊預金、特殊金錢信託、債務者特殊借入金、戰時金融金庫特殊借入金、政府特殊債權及第六條第三項(第七條第二項及第九條第二項ニ於テ準用スル場合ヲ含ム)ノ規定ニ依リテ爲ス資金ノ融通ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十七條 命令ヲ以テ定ムル會社ノ營業ノ全部ノ讓渡又ハ解散ニ關スル株主總會若ハ社員總會ノ決議又ハ總社員ノ同意ハ命令ノ定ムル所ニ依リ政府ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生セズ

命令ヲ以テ定ムル會社ハ他ノ法令ノ規定ニ拘ラズ存立時期ノ滿了其ノ他定款ニ定メタル解散事由ノ發生ニ依リテハ解散セズ

第十八條 政府ハ第一條ノ目的達成ノ爲必要アリト認ムルトキハ命令ヲ以テ定ムル會社ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ目的若ハ存立時期其ノ他解散事由ニ關シ定款ノ變更ヲ命ジ又ハ會社ヲ繼續スベキコトヲ命ズルコトヲ得

第十九條 政府ハ第一條ノ目的達成ノ爲必要アリト認ムルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ設備、權利其ノ他ノ資産ノ出資又ハ讓渡等ニ因リ資産ノ大部分ガ有價證券又ハ債權ト爲リタル會社ニ對シ信託會社又ハ信託業務ヲ營ム銀行(以下信託業者ト總稱ス)ニ其ノ資産ヲ信託シ又ハ其ノ資産ノ管理ヲ委託スベキコトヲ命ズルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ信託業者ハ資産ノ信託ノ引受ヲ爲シ又ハ資産ノ管理ヲ受託スルコトヲ要ス

前二項ノ場合ニ於テハ信託業者ハ信託業法第四條ノ規定ニ拘ラズ同條ニ揭グル財産以外ノ財産ノ信託ノ引受ヲ爲スコトヲ得

政府ハ第一項ノ規定ニ基ク命令ニ依リ信託業者ニ其ノ資産ヲ信託シ又ハ其ノ資産ノ管理ヲ委託シタル會社ニ對シ他ノ法令ノ規定ニ拘ラズ勅令ノ定ムル所ニ依リ役員ノ數ヲ減少スベキコトヲ命ズルコトヲ得

前項ノ資産ヲ信託シ又ハ資産ノ管理ヲ委託シタル會社ノ株主總會又ハ社員總會ノ招集ニ關シテハ他ノ法令ノ規定ニ拘ラズ勅令ヲ以テ別段ノ定ヲ爲スコトヲ得

第二十條 企業整備ニ關シ營業ノ全部又ハ一部ヲ廢止又ハ休止シタル會社及法令、法令ニ基ク命令又ハ行政官廳ノ指導若ハ斡旋ニ依リ繼續又ハ合併ヲ爲シタル會社ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ政府ノ許可ヲ受ケ他ノ法令ノ規定ニ拘ラズ其ノ經理ニ付必要ナル措置ヲ爲スコトヲ得

第二十一條 政府ハ第一條ノ目的達成ノ爲必要アリト認ムルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ會社ノ資本ノ增加ニ關シ必要ナル命令ヲ爲シ又ハ其ノ減少ヲ制限スルコトヲ得

第二十二條 企業整備ニ關シ法令、法令ニ基ク命令又ハ行政官廳ノ指導若ハ斡旋ニ依リテ爲ス會社ノ設立、繼續、定款ノ變更、營業ノ全部若ハ一部ノ讓渡若ハ讓受、合併又ハ資本ノ增加ニ關シテハ他ノ法令ノ規定ニ拘ラズ勅令ヲ以テ別段ノ定ヲ爲スコトヲ得

第二十三條 命令ヲ以テ定ムル法人解散シタルトキハ其ノ殘餘財産ノ分配ハ金錢以外ノモノヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

前項ノ法人ノ淸算人ハ命令ノ定ムル所ニ依リ法人財産ノ換價其ノ他ノ處

分及殘餘財産ノ分配ニ付裁判所ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス

裁判所ハ第一項ノ法人ノ清算人ニ對シ法人財産ノ換價其ノ他ノ處分及殘餘財産ノ分配ニ關シ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

行政官廳ハ第一項ノ法人ノ清算ニ關シ裁判所ニ對シ必要ナル意見ヲ述ブルコトヲ得

第二十四條　政府ハ第一條ノ目的達成ノ爲必要アリト認ムルトキハ企業整備ニ關シ事業ノ全部又ハ一部ヲ廢止又ハ休止シタル者、事業ニ屬スル設備、權利其ノ他ノ資産ヲ取得又ハ處分シタル者及此等ノ者ト債務關係アル者ノ金錢債務ノ條件、擔保等ノ調整ニ關シ命令ノ定ムル所ニ依リ必要ナル指示ヲ爲スコトヲ得

政府ハ前項ノ規定ニ依ル指示ニ從ヒタル者ニ對シ其ノ指示ニ從ヒタルニ因リ蒙リタル損失ヲ補償スルノ契約ヲ爲スコトヲ得

前項ノ損失ヲ決定スル基準ハ大藏大臣之ヲ定ム

第二項ノ補償金ノ額ニ付テハ豫メ帝國議會ノ協賛ヲ求ムベシ

第二十五條　政府ハ必要アリト認ムルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ報告ヲ徵シ又ハ當該官吏ヲシテ必要ナル場所ニ臨檢シ帳簿書類其ノ他ノ物件ヲ檢査セシムルコトヲ得

第二十六條　本法ノ施行ニ關スル重要事項ニ付政府ノ諮問ニ應ズル爲企業整備資金委員會ヲ置ク

企業整備資金委員會ノ組織及權限ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十七條　企業整備ニ關シ轉業又ハ廢業ヲ爲ス商工業者等ガ國民更生金庫ニ對シ讓渡其ノ他ノ處分ヲ爲ス資産ノ評價ニ關スル事項ハ轉廢業者資産評價委員會ノ議ヲ經ルコトヲ要ス

企業整備ニ關シ産業設備營團ガ産業設備營團法第十七條第一項第一號又ハ第五號ノ規定ニ依リ買受クル設備ノ評價ニ關スル事項ハ産業設備評價委員會ノ議ヲ經ルコトヲ要ス

轉廢業者資産評價委員會及産業設備評價委員會ノ組織及權限ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十八條　政府ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ勅令ヲ以テ定ムル者ヲシテ本法ニ規定スル職權ノ一部ヲ行ハシムルコトヲ得

第二十九條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ二年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

一　第三條ノ規定ニ基ク命令ニ違反シタル者

二　第四條ノ規定ニ違反シタル者

三　第二十三條第二項ノ規定ニ違反シ又ハ同條第三項ノ規定ニ基ク命令ニ違反シタル者

第三十條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ六月以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

一　第六條第二項(第七條第二項ニ於テ準用スル場合ヲ含ム)ノ規定ニ違反シタル者

二　第十二條第一項ノ規定ニ違反シタル者

三　第十四條第二項ノ規定ニ違反シタル者

四　第十八條ノ規定ニ基ク命令ニ違反シタル者

五　第十九條第一項若ハ第四項ノ規定ニ基ク命令ニ違反シ又ハ同條第二項ノ規定ニ違反シタル者

六　第二十一條ノ規定ニ基ク命令又ハ制限ニ違反シタル者

七　第二十五條ノ規定ニ依ル臨検検査ヲ拒ミ、妨ゲ又ハ忌避シタル者

第三十一條　第二十五條ノ規定ニ依ル報告ヲ爲サズ若ハ虚僞ノ報告ヲ爲シ又ハ本法若ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依リ提出スル書類ニ虚僞ノ記載ヲ爲シタル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十二條　法人ノ代表者又ハ法人若ハ人ノ代理人、使用人其ノ他ノ從業者ガ其ノ法人又ハ人ノ業務ニ關シ第二十九條、第三十條第一號乃至第六號又ハ前條ノ違反行爲ヲ爲シタルトキハ行爲者ヲ罰スルノ外其ノ法人又ハ人ニ對シ各本條ノ罰金刑ヲ科ス

第三十三條　當該官吏其ノ他勅令ヲ以テ定ムル者、第二十八條ノ規定ニ依リ政府ノ職權ノ一部ヲ行フ者（其ノ者ガ法人ナルトキハ當該職權ニ屬スル事務ニ從事スル職員）、政府特殊借入金若ハ政府特殊債權ニ關スル事務ニ從事スル日本銀行職員又ハ此等ノ職ニ在リタル者本法ニ依ル職務執行ニ關シ知得タル法人又ハ人ノ業務上ノ秘密ヲ漏洩シ又ハ竊用シタルトキハ二年以下ノ懲役又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十四條　本法ヲ朝鮮又ハ臺灣ニ施行スル場合ニ於テ必要アルトキハ勅令ヲ以テ特別ノ定ヲ爲スコトヲ得

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

（昭和十八年勅令第五百六十二號ヲ以テ昭和十八年七月十五日ヨリ施行）

臨時租税措置法中左ノ通改正ス

第一條ノ四ニ左ノ一號ヲ加フ

六　法人ノ命令ヲ以テ定ムル場合ニ於ケル資産ノ評價換ニ因ル益金

第一條ノ十八中「命令ヲ以テ定ムル者ニ」ヲ削リ「有價證券」ノ下ニ「其ノ他命令ヲ以テ定ムルモノ」ヲ加フ

第一條ノ二十八中「命令ヲ以テ定ムル者ニ」ヲ削ル

第一條ノ二十九　企業整備資金措置法ニ規定スル政府特殊借入金ノ利子ニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依リ分類所得税ヲ輕減シ又ハ所得税法ニ依ル所得若ハ法人税法ニ依ル所得ノ計算ニ關シ特例ヲ設クルコトヲ得

命令ヲ以テ定ムル金融機關ガ前項ノ政府特殊借入金ノ債權ヲ擔保トシテ貸付ケタル貸付金ノ利子ニ付テハ法人税法ニ依ル所得ノ計算ニ關シ命令ヲ以テ特例ヲ設クルコトヲ得

第一條ノ三十　法令、法令ニ基ク命令又ハ行政官廳ノ指導若ハ斡旋ニ依リ昭和十八年一月一日以後ニ於テ其ノ事業ノ全部又ハ一部ヲ廢止又ハ休止シタル法人ニシテ命令ヲ以テ定ムルモノニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依リ廢止又ハ休止ノ日以後ニ於テ納付スベキ所得税、法人税、營業税又ハ臨時利得税ヲ輕減スルコトヲ得

●企業整備資金措置法施行令

昭和十八年七月一日
勅令第五百六十三號

朕企業整備資金措置法施行令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

（總理、陸軍、厚生、司法、海軍、通信、大藏、商工、鐵道、内務、農林大臣副署）

企業整備資金措置法施行令

第一條　左ノ各號ノ場合ニ於ケル金錢債務ノ決濟ハ企業整備資金措置法第四條ノ規定ニ依リ之ヲ爲スコトヲ要ス但シ命令ヲ以テ定ムル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

参照

●國民更生金庫　昭和十六年三月六日（總理、大藏大臣副署）法律第四十二號

第十七條　國民更生金庫ハ左ノ業務ヲ行フ

一　轉業又ハ廢業ヲ爲ス商工業者等ノ爲ニスル資産ノ管理又ハ處分

二　轉業又ハ廢業ヲ爲ス商工業者等ノ爲ニスル資金ノ融通

三　轉業又ハ廢業ヲ爲ス商工業者等ノ爲ニスル債務ノ引受又ハ保證

四　前各號ノ業務ニ附帶スル事業

國民厚生金庫ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケ前項ニ掲グル業務以外ノ業務ヲ行フコトヲ得

本法ニ規定スルモノノ外國民厚生金庫ノ業務ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

参照

●信託業法　大正十一年四月二十一日　法律第六十五號（總理、大藏大臣副署）

第四條　信託會社ハ左ニ掲クル財産以外ノモノノ信託ノ引受ヲ爲スコトヲ得

一　金錢
二　有價證劵
三　金錢債權
四　動産
五　土地及其ノ定著物
六　地上權及土地ノ賃借權

参照

● 朝鮮信託業令　昭和六年六月九日　制令第八號

第七條　信託會社ハ左ニ掲グル財産以外ノモノノ信託ノ引受ヲ爲スコトヲ得ズ

一　金錢

二　有價證券

三　金錢債權

四　動產

五　土地及其ノ定著物

六　地上權及土地ノ賃借權

朝鮮重要物資營團令案

制令第　　號

朝鮮重要物資營團令

第一章　總則

第一條　朝鮮重要物資營團ハ戰時ニ際シ產業設備（之ニ充ツベキ機械及器具ヲ含ム以下同ジ）ノ活用ヲ圖リ企業整備ニ關シ轉業又ハ廢業ヲ爲ス商工業者等ノ資產及負債ノ整理ヲ[illegible]・×戰時生活必需物資其ノ他ノ緊要物資（以下重要物資ト稱ス）ノ貯藏ヲ確保シ貯藏重要物資ノ利用ヲ有效且適切ナラシメ竝ニ金屬類ノ回收ヲ圖リ併テ重要物資ノ價格ノ調整ヲ行フコトヲ目的トス

朝鮮重要物資營團ハ法人トス

第二條　朝鮮重要物資營團ハ主タル事務所ヲ京城府ニ置ク

朝鮮重要物資營團ハ必要ノ地ニ從タル事務所ヲ設置スルコトヲ得

第三條　朝鮮重要物資營團ノ資本ハ千萬圓トシ政府之ヲ出資ス

前項ノ出資ハ國債證券ヲ交付シテ之ヲ爲スコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ交付スル國債證券ノ交付價格ハ政府ノ定ムル所ニ依ル

第四條　朝鮮重要物資營團ハ定款ヲ以テ左ノ事項ヲ規定スベシ

一　目的

二　名稱

三　事務所ノ所在地

四　資本金額及資産ニ關スル事項

五　役員及會議ニ關スル事項

六　業務及其ノ執行ニ關スル事項

七　朝鮮重要物資債券ノ發行ニ關スル事項

八　會計ニ關スル事項

九　公告ノ方法

定款ハ朝鮮總督ノ認可ヲ受ケ之ヲ變更スルコトヲ得

第五條　朝鮮重要物資營團ハ朝鮮總督ノ定ムル所ニ依リ登記ヲ爲スコトヲ要ス

前項ノ規定ニ依リ登記スベキ事項ハ登記ノ後ニ非ザレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ズ

第六條　朝鮮重要物資營團ニ付解散ヲ必要トスル事由發生シタル場合ニ於テ其ノ處置ニ關シテハ別ニ之ヲ定ム

第七條　朝鮮重要物產營團ニ非ザル者ハ朝鮮重要物產營團又ハ之ニ類似スル名稱ヲ用フルコトヲ得ズ

第八條　朝鮮民事令ニ於テ依ルコトヲ定メタル民法第四十四條、第五十條、第五十四條、第五十五條及第五十七條並ニ非訟事件手續法第三十五條第一項ノ規定ハ朝鮮重要物資營團ニ之ヲ適用ス

第二章　職員

第九條　朝鮮重要物資營團ニ役員トシテ理事長副理事長各一人、理事三人以上、監事二人以上及評議員若干人ヲ置ク

第十條　理事長ハ朝鮮重要物資營團ヲ代表シ其ノ業務ヲ總理ス
副理事長ハ定款ノ定ムル所ニ依リ朝鮮重要物資營團ヲ代表シ理事長ヲ輔佐シテ朝鮮重要物資營團ノ業務ヲ掌理ス
副理事長ハ理事長事故アルトキハ其ノ職務ヲ代理シ理事長缺員ノトキハ其ノ職務ヲ行フ
理事ハ定款ノ定ムル所ニ依リ朝鮮重要物資營團ヲ代表シ理事長及副理事長ヲ補佐シテ朝鮮重要物資營團ノ業務ヲ掌理ス
理事ハ定款ノ定ムル所ニ依リ理事長及副理事長共ニ事故アルトキハ其ノ職務ヲ代理シ理事長及副理事長共ニ缺員ノトキハ其ノ職務ヲ行フ

監事ハ朝鮮重要物資營團ノ業務ヲ監査ス

評議員ハ朝鮮重要物資營團ノ業務ニ關スル重要事項ニ付理事長ノ諮問ニ應ジ必要アルトキハ之ニ對シ意見ヲ述ブルコトヲ得

第十一條　理事長、副理事長、理事、監事及評議員ハ朝鮮總督之ヲ命ス

理事長、副理事長及理事ノ任期ハ三年、監事及評議員ノ任期ハ二年トス

第十二條　理事長、副理事長及理事ハ定款ノ定ムル所ニ依リ從タル事務所ノ業務ニ關シ一切ノ裁判上叉ハ裁判外ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有スル代理人ヲ選任スルコトヲ得

第十三條　理事長、副理事長及理事ハ他ノ職業ニ従事スルコトヲ得ズ但シ朝鮮總督ノ認可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第十四條　朝鮮重要物資營團ノ役員其ノ他ノ職員ハ法令ニ依リ公務ニ従事スル職員ト看做ス

第三章 業務

第十五條 朝鮮重要物資營團ハ左ノ業務ヲ行フモノトス

一 未完成又ハ遊休ノ狀態ニ在ル產業設備ノ買受、賣渡及保有竝ニ其ノ活用ニ關スル斡旋

二 企業整備ニ關シ轉業又ハ廢業ヲ爲ス商工業者等ノ資產ノ買受、賣渡及保有竝ニ其ノ活用ニ關スル斡旋

三 前號ニ掲グル者ノ共助金資金ノ融通

四 朝鮮總督ノ指定スル重要物資ノ買受、賣渡及保有

五 金屬類ノ回收及回收シタル金屬類ノ賣渡

六 前各號ノ業務ニ附帶スル業務

朝鮮重要物資營團ハ朝鮮總督ノ認可ヲ受ケ前項ニ掲グル業務以外ノ業務ヲ行フコトヲ得

第十六條　朝鮮重要物資營團ハ朝鮮總督ノ認可ヲ受ケ契約ニ依リ法人其ノ他ノ團體ヲシテ前條ニ規定スル業務ノ一部ヲ取扱ハシムルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ同項ノ法人其ノ他ノ團體ガ同項ノ業務ヲ行フ場合ニ於テハ同項ノ法人其ノ他ノ團體ノ役員又ハ使用人ニシテ同項ノ業務ニ從事スルモノハ之ヲ朝鮮重要物資營團ノ當該業務ニ從事スル職員ト看做ス

第十七條　朝鮮重要物資營團ハ第十五條第一項第一號又ハ第二號ノ規定ニ依リ買受ケタル設備其ノ他ノ資産ノ代價ニ付テハ國債證券ヲ以テ之ヲ交付スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ交付スル國債證券ノ交付價格ハ政府ノ定ムル所ニ依ル

第十八條　朝鮮總督ハ朝鮮軍需物資營團ガ第十五條第一項第一號又ハ第二號ノ規定ニ依リ設備其ノ他ノ資産ヲ買受ケタル場合ニ於テ之ヲ譲渡シタル者ニ對シ其ノ代價トシテ受ケタル金錢又ハ國債證券ノ處分ニ關シ必要ナル指示ヲ爲スコトヲ得

第四章　朝鮮重要物資債券

第十九條　朝鮮重要物資營團ハ拂込資本金額ノ十倍ヲ限リ朝鮮重要物資債券ヲ發行スルコトヲ得

第二十條　朝鮮重要物資債券ハ額面金額五十圓以上トシ無記名式利札附トス但シ應募者又ハ所有者ノ請求ニ依リ記名式ト爲スコトヲ得
朝鮮重要物資債券ハ割引ノ方法ヲ以テ之ヲ發行スルコトヲ得

第二十二條　朝鮮重要物資債券ハ賣出ノ方法ヲ以テ之ヲ發行スルコトヲ得

第二十一條　朝鮮重要物資營團ハ朝鮮重要物資債券借換ノ爲一時第十九條ノ制限ニ依ラズ朝鮮重要物資債券ヲ發行スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ朝鮮重要物資債券ヲ發行シタルトキハ發行後一月以內ニ其ノ發行額面金額ニ相當スル舊朝鮮重要物資債券ヲ償還スベシ

第二十三條　朝鮮重要物資營團ニ於テ朝鮮重要物資債券ヲ發行セムトスルトキハ朝鮮總督ノ認可ヲ受クベシ

第二十四條　朝鮮重要物資債券ノ消滅時效ハ元本ニ在リテハ十五年、利子ニ在リテハ五年ヲ以テ完成ス

第二十五條　朝鮮重要物資債券ノ所有者ハ朝鮮重要物資營團ノ財産ニ付他ノ債權者ニ先チテ自己ノ債權ノ辨濟ヲ受クル權利ヲ有ス

前項ノ規定ハ朝鮮民事令ニ於テ依ルコトヲ定メタル民法ノ一般ノ先取特權ノ行使ヲ妨グルコトナシ

第二十六條　朝鮮所得稅令及朝鮮資本利子稅令中國債以外ノ公債ニ關スル規定ハ朝鮮重要物資債券ニ之ヲ準用ス

第二十七條　本章ニ規定スルモノヲ除クノ外朝鮮重要物資債券ニ關シ必要ナル事項ハ朝鮮總督之ヲ定ム

第五章　會計

第二十八條　朝鮮重要物資營團ノ事業年度ハ毎年四月ヨリ翌年三月迄トス

第二十九條　朝鮮重要物資營團ハ左ノ方法ニ依ルノ外業務上ノ餘裕金ヲ運用スルコトヲ得ズ

一　國債、地方債又ハ朝鮮總督ノ認可ヲ受ケタル有價證券ノ取得ヲ爲スコト

二　銀行若ハ朝鮮金融組合聯合會ヘノ預金又ハ郵便貯金ト爲スコト

第三十條　朝鮮貿易物資營團ハ設立ノ時及毎事業年度ノ初ニ於テ財産目録、貸借對照表及損益計算書ヲ作成シ定款ト共ニ之ヲ各事務所ニ備置クコトヲ要ス

第六章　監督及補助

第二十一條　朝鮮重要物資營團ハ朝鮮總督之ヲ監督ス

第三十二條　朝鮮重要物資營團借入金ヲ爲サントスルトキハ朝鮮總督ノ認可ヲ受クベシ

第二十二條　朝鮮重要物資營團ハ朝鮮總督ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ剩餘金ノ處分ヲ爲スコトヲ得ズ

第二十四條　朝鮮重要物資營團ハ業務開始ノ際業務ノ方法ヲ定メ朝鮮總督ノ認可ヲ受クベシ之ヲ變更セントスルトキ亦同ジ

朝鮮重要物資營團ハ每事業年度ノ初ニ於テ事業計畫ヲ定メ朝鮮總督ノ認可ヲ受クベシ之ヲ變更セントスルトキ亦同ジ

第二十五條　朝鮮總督ハ朝鮮重要物資營團ニ對シ業務及財産ノ状況ニ關シ報告ヲ爲サシメ、檢査ヲ爲シ其ノ他監督上必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

第二十六條　朝鮮總督ハ朝鮮重要物資營團監理官ヲ置キ朝鮮重要物資營團ノ業務ヲ監視セシム

朝鮮重要物資營團監理官ハ何時ニテモ朝鮮重要物資營團ノ業務及財産ノ狀況ヲ檢査スルコトヲ得

朝鮮重要物資營團監理官ハ必要アリト認ムルトキハ何時ニテモ朝鮮重要物資營團ニ命ジ業務及財産ノ狀況ヲ報告セシムルコトヲ得

朝鮮重要物資營團監理官ハ朝鮮重要物資營團ノ諸般ノ會議ニ出席シ意見ヲ陳述スルコトヲ得

第二十七條　役員ガ法令、定款若ハ朝鮮總督ノ命令ニ違反シ又ハ公益ヲ害スル行爲ヲ爲シタルトキハ朝鮮總督ハ之ヲ解任スルコトヲ得

第三十八條　朝鮮電興物資營團ガ第十五條ニ規定スル業務ニ因リテ受ケタル損失ハ帝國議會ノ協贊ヲ經タル金額ノ範圍内ニ於テ朝鮮總督之ヲ補償スルコトヲ得

第七章　罰則

第三十九條　左ノ場合ニ於テハ朝鮮重要物資營團ノ理事長、副理事長、理事又ハ監事ヲ千圓以下ノ過料ニ處ス

一　本令ニ依リ認可ヲ受クベキ場合ニ於テ其ノ認可ヲ受ケザルトキ

二　第十五條ノ規定ニ依ラズシテ業務ヲ營ミタルトキ

三　第十九條又ハ第二十一條第二項ノ規定ニ違反シ朝鮮重要物資營團債券ノ發行ヲ爲シ又ハ償還ヲ爲サザルトキ

四　第二十九條ノ規定ニ違反シ業務上ノ餘裕金ヲ運用シタルトキ

五　第三十五條ノ規定ニ基キテ爲シタル命令又ハ處分ニ違反シタルトキ

六　第三十六條第二項又ハ第三項ノ規定ニ依ル朝鮮重要物資營團監

理官ノ檢査ヲ拒ミ、妨ゲ若ハ忌避シ又ハ其ノ命ズル報告ヲ爲サザルトキ

第四十條　左ノ場合ニ於テハ朝鮮重要物資營團ノ理事長、副理事長、理事又ハ監事ヲ五百圓以下ノ過料ニ處ス

一　第五條第一項ノ規定ニ基キテ發スル命令ニ違反シ登記ヲ爲スコトヲ怠リ又ハ不正ノ登記ヲ爲シタルトキ

二　第三十條ノ規定ニ違反シ書類ヲ備置カザルトキ又ハ其ノ書類ニ記載スベキ事項ヲ記載セズ若ハ不正ノ記載ヲ爲シタルトキ

第四十一條　第七條ノ規定ニ違反シ朝鮮軍要物資營團又ハ之ニ類似スル名稱ヲ用ヒタル者ハ五百圓以下ノ過料ニ處ス

附則

第四十二條　本令施行ノ期日ハ朝鮮總督之ヲ定ム

第四十三條　朝鮮總督ハ設立委員ヲ命ジ朝鮮重要物資營團ノ設立ニ關スル事務ヲ處理セシム

第四十四條　設立委員ハ定款ヲ作成シ朝鮮總督ノ認可ヲ受クベシ

第四十五條　定款ニ付朝鮮總督ノ認可アリタルトキハ設立委員ハ遲滯ナク出資ノ拂込ヲ要請スベシ

第四十六條　出資ノ拂込アリタルトキハ設立委員ハ遲滞ナク其ノ事務ヲ朝鮮重要物資營團理事長ニ引繼クベシ

理事長前項ノ事務ノ引繼ヲ受ケタルトキハ理事長、副理事長、理事及監事ノ全員ハ主タル事務所ノ所在地ニ於テ設立ノ登記ヲ爲スベシ

朝鮮重要物資營團ハ設立ノ登記ヲ爲スニ因リテ成立ス

第四十七條　朝鮮營業稅令中左ノ通改正ス

第三條第一號中「朝鮮住宅營團」ノ下ニ「朝鮮重要物資營團」ヲ加フ

第四十八條　朝鮮登錄稅令中左ノ通改正ス

第七條第七號中「朝鮮食糧營團」ノ下ニ「朝鮮重要物資營團」ヲ、「朝鮮食糧營團令」ノ下ニ「朝鮮重要物資營團令」ヲ加フ

同條第十四號ノ二ノ次ニ左ノ二號ヲ加フ

十四ノ三　朝鮮重要物資營團ノ事務所ノ用ニ供スル不動産ニ關スル登記

十四ノ四　朝鮮重要物資營團令第十五條第一項第一號乃至第三號ノ業務ノ爲ニスル權利ノ取得又ハ所有權ノ保存ノ登記又ハ登錄